

旧佐柿町奉行所(御茶屋屋敷、御陣屋)門の門扉

この門扉は、美浜町郷市の田辺四郎兵衛家に建っていた土蔵付二階門のもので、平成31年(2019)4月、前年の台風で破損が著しく、倒壊の危険もあって解体されました。しかし、門は佐柿町奉行所(御茶屋屋敷、御陣屋)の門を明治維新後に移築したという伝承があったことから、所縁の地に建つ当館に移築して広く公開することになりました。

土蔵付二階門の解体時、立会調査していただいた吉田純一先生(FUT福井城郭研究所顧問)によると、門部は中央の柱間約7.9尺(2393mm)を測り、両開きの板扉が付きます。板扉にはハ双金具はっそうかなぐや乳金具ちちかなぐが取り付け、右扉には潜り戸くぐが付きます。その両脇に建つ2本の大柱(鏡柱)は、見付け約8寸4分(255mm)×見込み約5寸1分(155mm)と、見付け約8寸3分(250mm)×見込み約5寸(2150mm)を測ります。その上には冠木かぶきの横架材が渡されていますが、これらはいずれも檜材けやきで、他材と比べて風食は甚大で、重厚さや武骨さが伺えます。これら門部が江戸時代に遡る部材であることは、材質や風食具合からみても明らかです。これ以外の土蔵、2階部の部材はいずれも新しく、材質も杉材でしたので、陣屋門の移築と考えられる旧材は、展示している板扉2枚と鏡柱2本、冠木だけとみられます。

因みに、両鏡柱の内面には上下2段の貫穴ぬきあながあり、旧門は背後に控柱を備える形式の薬医門やくいもんあるいは高麗門こうらいもんであったことが推察できます。

【参考資料】 吉田純一 『田辺正家長屋門について』 2019

令和元年(2019) 12月



解体前の田辺四郎兵衛家表門(美浜町郷市)



解体前の同門扉部表



解体前の同門扉部裏



『佐柿村絵図』に描かれた御陣屋門

